

いのちを後回しにしない政治を今、沖縄から。

みおのクロトン便り

第2号 2015年8月17日

仲村 未央

沖縄県議会議員

幸せを呼ぶというクロトンのように 多様に 多彩に しなやかに

戦後70年談話を迎えて

7月に発行された「日本とドイツふたつの『戦後』」—熊谷徹、集英社新書—に目を通していたところで、安倍首相の「戦後70年談話」を迎えた。自らの考えと相容れないところは、歴代内閣の姿勢に換えて主体をごまかし、一方で「先の世代の子どもたちに謝罪を続ける宿命を背負わせてはなりません」と断言するあたりがもっとも歯切れよく、本心なのだろうと感じる。

上述の熊谷著で紹介されている、ドイツ連邦政府、アンゲラ・メルケル首相の演説を、引用したい。

「(ナチスによる犯罪という)ドイツの歴史の中の道徳的な破局について、ドイツが永久に責任を認めることによつてのみ、我々は人間的な未来を形作ることができます。つまり我々は、過去に対して責任を持つことにより、初めて人間性を持つことができるのです」

「ドイツの名の下に行われた大量虐殺により、600万人のユダヤ人が犠牲になりました。このことはユダヤ人、欧州、そして世界に表現しようのない苦しみをもたらしました。ショア(ユダヤ人大量虐殺)は、我々ドイツ人を恥の気持ちで満たします。ショアは、人間の文明を否定した行為であり、歴史に例がありません。私は犠牲者、そしてユダヤ人を救った人々の前に頭を垂れます」

「ナチスの残虐行為を相対化しようとする試みには、毅然と立ち向かいます。反ユダヤ主義、人種差別、外国人排斥主義がドイツと欧州にはびこることを、二度と許しません」
(2008年3月エルサレムにて)

「私たちドイツ人は、過去を忘れてはならない。私たちは、数百万人の犠牲のために、過去を記憶していく責任があります」

「ナチス時代の犯罪と批判的に対決すれば、将来我々の尊厳を奪おうとする勢力と戦う力を身につけることができる」
(2015年1月ベルリンにて)

追伸

◆「止めよう辺野古新基地！沖縄市民会議」では、5月にスタートした「月曜辺野古バス行動」の継続的な取り組みに加え、学習会を企画しました。元沖縄大学学長で、翁長知事が設置した第三者委員会委員として「辺野古埋立承認瑕疵(かし)あり」との検証結果を出した桜井国俊先生をお招きし、辺野古アセスや埋立承認の問題点を語っていただきます。

日時:8月24日(月)19:00～

場所:沖縄市農民研修センター(入場無料)

作業は政府、県の協議で一時中断していますが、情勢は予断を許しません。いよいよ承認取り消し、撤回へ向かう翁長知事を皆で支えていきましょう。皆さん、ぜひご参集ください。

◆夏の風物詩、山内中学校区の青年会による「風山祭」。久保田青年会の「唐船ドーイ」演舞 = 写真。



憲法、自治、米軍基地問題、こどもの貧困、労働者の権利などのテーマで講演や勉強会も行っています。ご意見、お問合せがありましたら、どうぞご連絡ください。

電話：098-989-1638(みお事務所)、098-866-2702(沖縄県議会会派室)

Eメール：go@miomio.ne.jp

住所：〒904-0011 沖縄市照屋1-7-19(なかむらみお後援会事務所)

